

# 筑波大学における日本語プレースメントテストの変遷 —日本語力測定のためのテスト開発と利用—

酒井 たか子

## 要 旨

筑波大学では留学生に対する日本語教育のために、さまざまなコースで多様な学習者を受け入れている。学習者に効果的な日本語教育を行うためには、的確に日本語力を診断するプレースメントテストが求められる。そこで、妥当性が高くかつ効率的なプレースメントテストに関する研究開発が進められてきた。これまでの30年を振り返ると、対応すべき受験者数の増加やコンピュータおよびインターネットなどの技術革新とともに、テストの形式や内容などが大きく変わってきた。本稿ではこれまでのプレースメントテストの変遷を概観し、続けて現段階のオンラインのTTBJプレースメントテストについてその内容や利用方法について述べる。

【キーワード】 日本語プレースメントテスト オンラインテスト TTBJ

## Changes in the University of Tsukuba Japanese Language Placement Test: Developing and Applying the Test to Measure Japanese Language Proficiency

SAKAI Takako

**[Abstract]** At the University of Tsukuba, a variety of Japanese language courses cater to the needs of the international students. To provide effective language learning, a highly reliable and efficient placement test is required to accurately measure the learners' Japanese ability. The author and co-researchers have been developing such a test. The form and content of the test have changed drastically over the past 30 years, with the increase in student numbers, and technical innovations such as computers and the Internet. In this paper, changes in the placement test over time are outlined, followed by a description of contents and application of the current online TTBJ placement test.

**[Keywords]** Placement test, online test, TTBJ

## 1. はじめに

筑波大学の留学生に対する日本語教育は、後述するように多様なコースがあり、グローバルコミュニケーション教育センター（以下 CEGLOC）の日本語教育部門が中心となり教育・研究活動を進めている。

日本語学習者が効率よく日本語を学ぶためには、適切なレベルで受講することが重要である。そのためには、学習開始前に学習者の日本語力を的確に判断する必要がある。留学生の場合は、母語やこれまでの学習内容、学習方法、学習環境などにより、日本語の習得の様相が大きく異なる。このような多様な背景を持つ学生を適切なクラスに配置するために妥当性の高いプレースメントテストが求められる。

学生数が少ないときは、授業担当の教員が授業内容に合わせて、例えば会話クラスは実際に対面で会話を行ったり、作文クラスは作文を書かせたりするなど個々の学生に時間をかけて日本語力の程度を判断することが可能であるが、受講者数が増えるにしたがって、このようなパフォーマンス型のテストは難しくなる。そこで日本語レベルを効率よく判断するための独自のプレースメントテストの開発研究が始まった。

旧留学生センターの日本語教育部門の酒井、加納、小林が中心になり、それぞれの専門分野を中心に日本語力の評価、測定法の研究を進めて得られた成果を合わせて TTBJ (Tsukuba Test-Battery of Japanese 筑波日本語テスト集) が完成した<sup>1</sup>。システムは、大学のシステム情報系の教員から紹介を受けたロゴスウェア株式会社に依頼し共同で開発を進めた<sup>2</sup>。

TTBJ は、様々なテストが収められており、目的に応じて必要なテストを選んで受験できるようになっている。ここでは、その中からプレースメントテストとして利用しているものに絞り、「TTBJ プレースメントテスト」として紹介する。

本稿では、2章でプレースメントテストの開発理念について述べ、3章で現在に至るまでの開発経緯を概観する。続いて4章において現在筑波大学で利用している TTBJ プレースメントテストについて、作成方針、内容、受験方法、利用の仕方について述べる。TTBJ は、日本語・日本事情遠隔教育拠点のサイトで無料で公開されており<sup>3</sup>、国内外の多数の日本語教育関係者に利用されているが、さらに広く利用してもらえれば幸いである。

## 2. 筑波大学の日本語教育とプレースメントテストの開発理念

### 2.1 筑波大学の日本語教育

筑波大学が初めて留学生 12 人を受け入れたのは 1974 年であり、その後 1984 年には、全国で 3 番目となる留学生教育センターが設立された（堀口 1986）。1991 年に組織改編が行われ全学教育利用施設の留学生センターとなった。さらに 2015 年からは英語教育部門、国語教育部門とともに、CEGLOC の一部門として位置づけられている。2018 年

10月の留学生数は2605名にまで増加している。現在の筑波大学の留学生を対象とした主な日本語コースについて、受講対象者、各学期で開講される期間、日本語レベルと受講可能なコマ数、単位の有無を表1にまとめる。

表1 留学生を対象とした日本語授業（2018年）

日本語コース	受講対象者 (主なもの)	期間	開講しているレベル数 および履修時間数	単位
総合 日本語	特別聴講学生(学群) 日本語・日本文化研修留 学生	各学期 15週	7レベル(初級～上級) 週6コマまで履修可能	協定校等か らの特別聴 講学生は出 身校で単位 認定
補講 日本語	学群学生 大学院学生 研究生 特別聴講学生(大学院) 日本語研修生 帰国生	各学期 10週	8レベル(初級～上級) 週6コマまで履修可能	単位取得 不可
集中 日本語	日本語研修生	15週	1レベル(初級) 週20コマ	単位取得不 可
日韓理工系学部 留学生日本語 コース	日韓理工系学部留学生	15週	1レベル(中上級) 週5コマ 他に補講日本語を合わ せて受講	単位取得不 可
外国語としての 日本語	学群学生 帰国生 特別聴講学生(学群)	各学期 15週	1レベル(上級) 聴解・読解・作文・演習	単位取得可 協定校等か らの特別聴 講学生は出 身校で単位 認定
Japan-Expert 学士プログラム	Japan-Expert学士プロ グラムの学群生(アグロ ノミスト養成、ヘルスケ ア、日本芸術、日本語教師 養成)	15週	2レベル(中上級・上 級)読む・書く・聞く・話 す・漢字・文法、総合日 本語、専門日本語	単位取得可
英語プログラム (G30)日本語	英語プログラムの学群生 (旧G30、BPGI)	10週 x2 学期	4レベル(初級～中級) 話す・聞く・読む・書く	単位取得可

## 2.2 筑波プレースメントテストの開発理念

筑波大学では、受講前に日本語既習の学生にはプレースメントテストで日本語力を測定し、その後、授業担当者が必要に応じて詳細な情報を得るための診断テストを行っている。また、日本語学習経験のない学習者のクラス分けのために「日本語習得適性テスト」を開発しており、合わせて紹介する。

### 2.2.1 日本語既習者に対するプレースメントテスト

筑波大学のプレースメントテスト（以下、筑波プレースメントテスト）の特徴として、酒井（2007）は以下の点をあげている

- 1) 1年に300人から400人が受験する中規模テストである（2007年現在）
- 2) 受験者の日本語能力が未習者から上級者までと幅広い
- 3) 受験者の母語や学習背景が多様である
- 4) 受験者の追跡が可能であるため、テストの妥当性等の検討が行いやすい
- 5) 授業担当者が希望する測定してほしい能力等の意見を、テストに反映させやすい

これらから、筑波プレースメントテストは、受験者を眺めながらテストの質を高めることが行いやすい中規模テストであると位置づけている。現在の年間の受験者数は800名を超えるまでに増加しているが基本的な特徴は変わっていない。

良いテストであるためには、測定しようとしているものが測定できているかという妥当性の面が一番重要である。プレースメントテストとしては、学生にとって日本語学習の成果がもっとも得られる適切なクラスに配置できるということになる。そこで、妥当性を検証するために、授業開始後の学生の移動、テストの受験状況からの問題点の把握、テストに対する学習者および教員からのフィードバック、コース終了時の不適応であった学生の情報の収集など、多くの各方面からの情報をもとに検討を重ねてきた。

一方で、テスト実施にあたり、受験者数の増加や技術革新だけでなく、どのようなデータが必要かというニーズにも変化がみられ、内容や方法が大きく変わってきた。また、テストの利用に関しては、クラス移動を希望する学習者の中には授業担当教師と見解が異なるケースもあるが、クラス配置をだれがどのようにして決めるのかについての考え方も、時代とともに変わってきている。

プレースメントテストの作成において、考慮すべきことを下記に示す。

### テスト作成

- ・だれがテスト問題を作成するか
- ・どのような学習者が対象か

- ・どのような日本語力を測るか
  - どの程度詳細な情報を必要とするか
  - いくつのレベルに分けるか
  - 総合的な能力を測るのか
  - 技能別の能力を測るのか
- ・どのように日本語力を測るか
  - 用紙版か CBT（コンピュータテスト）か対面式か
  - テスト時間はどのぐらいか
- ・テスト開発にかかる費用はどのぐらいか

### 実施

- ・どこで、どのような形でテストを実施するか
- ・テスト実施にかかる費用はどのぐらいか

### 実施後

- ・採点にかかる負担はどうするか
- ・結果を出すまでの時間はどのぐらいあるか

## 2.2.2 日本語未習者に対するプレースメントテスト

日本語の学習経験のない学生を対象にした日本語習得適性テスト（Japanese Language Aptitude Test）を、名古屋大学留学生センターと共同で開発した（村上他 1991）。本テストは、日本語研修生を対象とした集中日本語コースで、日本語習得の速度を予測し、また学習特性の情報を得る目的で作成し、クラス分けに利用した。第4版は、視覚情報処理課題、聴覚情報処理課題、文法解析力、学習能力を測るテストから構成されている。視覚情報処理に関わる問題としては図形の識別および図形の記憶課題、聴覚情報処理はミニマルペアの音声識別、何拍まで繰り返せるかという記憶課題、学習能力としては音と形の連合記憶、音節表記の記号化などで構成されている。適性テストとしては、学習過程に類似させた問題の予測的妥当性が高いことが分かった（酒井 1997）。

## 3. 筑波プレースメントテスト開発の変遷

1972年から1984年までの筑波大学における日本語教育に関わる情報について堀口（1986）が報告しているが、その中でプレースメントテストが初めて出てくるのが1984年10月である。それ以前は授業を行う教員がクラスごとに受講者の日本語レベルを把握し、レベルの合わない学生に対しては個別に対応していたようである。テストは、聴解、文字、語彙、文法、読解の5領域から成り、出題の範囲を4つの教科書に絞り、各領域で問題を一本化した、と述べられている。また、プレースメントテストの整備を今後の

課題の一つに挙げている。

その後、引き続き1985年から現在まで、受講者のクラス分けを目的としたプレースメントテストが年に2回ないし3回実施されてきている。ここでは詳細に記録が残っている1985年から2018年までを3期に分けて簡単に振り返りたい。

### 3.1 第1期：プレースメントテストの導入期

1985年10月に、受講希望者全員を対象としたプレースメントテストが施行された。この時の大学全体の留学生数は約400名であった。テストは半期ごとに行われ、1985年10月から1987年4月まで3回用いられたものを第一版、1987年10月から1989年4月まで用いられたものを第二版としてテスト結果の分析まで行っている。(三枝1987、1989、Saegusa 1987、酒井1987、1989)。ここでは、三枝(1989)を参考にして1986年のテストについて紹介する。テストの項目を表2に示す。

表2 1986年のプレースメントテストの項目

語彙	30問	25分(選択式)
聴解	30問	40分(選択式)
読解	30問	30分(選択式)
文法	30問	20分(選択式)
文字	30問	15分(記述式)
計 150 問、配点は各 1 点、全体で 150 点満点		

各テストの制限時間を合計すると130分であるが、説明の時間や問題の配布、回収を入れると全体で2時間半から3時間かかっていた。大教室で一斉にテストを行った。受験者は各期70人から100人前後であった。

当時、筑波大学で受け入れる外国人留学生のうち、大学院の正規生ないしは研究科受け入れの研究生は初級終了以上の日本語力がある者とされていたため、テスト内容も中級以上が主な対象となっている。解答の形式は「文字」に記述式の問題があるほかは、ほとんど三肢もしくは四肢選択問題である。記述式の文字問題は、どこまでを正解とするかについて基準を作りそれによって採点の統一性を図った。またテスト結果については、学生からの要望に応えるかたちで名前を伏せて成績の一覧表を張り出し、自分がどの成績かは教師に聞いてわかるようにした。信頼性は $\alpha$ 係数で聴解が0.83であったがそれ以外は0.90以上あり、テストとしては適当だと言える。150問で信頼性の足るテストができたと言えるが、課題としては、学生への負担の軽減のためにテスト時間の短縮をあげている。

### 3.2 第2期：マークシートの利用と新たな問題の追加

各回の受験者数が100人以上になり、採点の負担と時間の節約のため、選択問題の採点は1991年よりマークシートリーダーを利用して行うことにした。また、留学生センターの日本語の授業を2004年度より多目的化およびモジュール化した（加納2005）ことにともない、プレースメントテストの構成および内容も大きく見直しを行うことになった。テストは毎年少しずつ改定しているが、ここでは2005年度版について述べる。テスト項目は表3に示すように新たな問題の追加と、文法の学習者の日本語力により異なる問題を同時間帯に行う複線型でテストを実施した。

表3 2005年のプレースメントテストのテスト項目

記述式			
A-1	SPOT	60問	10分
A-2	作文		15分
A-3	文法(活用)	40問	10分
選択式(マークシートを利用)			
B	漢字語彙 漢字の読み方	30問	30分
	漢字表記選択	20問	20分
	語彙	20問	20分
C	音声文法	20問	10分
	音声語彙	30問	10分
D	文法(※)	90問	30分

※30問×7の中から30問×3を選択解答

各テストの制限時間を合計すると160分であるが、テストにかかる総所要時間は約3時間である。大教室を使い、受験者数が多い場合は午前、午後の2回に分けて一斉テストを行った。この時期のテストの受付からテスト処理までの流れ等は吉田他(2008)を参照してほしい。

日本語のレベルは9段階に分け、1～6を初級、7～9を中級から上級とした。1～6は、「Situational Functional Japanese」(凡人社)の1巻から3巻をそれぞれ前半、後半、計6段階に分けて使用するため、文法項目の既習項目について精度を上げて情報を得ることが必要になった。そこで文法問題を210問(30問×7レベル)に増やし、その中から90問(30問×3レベル)を選んで解答させた。どの問題を選択するかを決める判断材料としては、テスト申し込み時に「プレースメントテスト・スタートレベル判断問題(Pre-placement Test)」を行い自己採点してレベルを確認させる方法をとった。

複線型実施については、2004年には初めにSPOTを行い、直後に採点して初級と中

上級のレベル判定を行い、別の問題を実施することもあった。

一方で、特に中級以上の授業担当者より、テストが文法や語彙の知識を問う問題に偏っており、実際には教師の説明が聞き取れない、話せない、という学生が散見されミスブレースだとの指摘も受けた。それらを解決するために新たなテスト形式の問題を追加した。すなわち、SPOT (Simple Performance-Oriented Test) (表3 A-1)、音声による文法問題 (表3 C)、音声による語彙問題 (表3 C) である。

SPOTは、文を聞いて空欄にひらがな一文字を入れるテストで、日本語運用力を推定できると考えられる (フォード他 1995、Ford-Niwa and Kobayashi 1999、小林他 1992、小林他 1996、小林他 2007、小林 2005、2014、Kobayashi 2016 等)。

音声提示による文法問題は、文を途中まで聞きそれに続く文を選ぶテストで、選択肢も音声で与えられる。この形式の問題は、当時としてはユニークなものであり、2010年度からの新しい日本語能力試験の聴解問題にも類似の形式が含まれる先駆けとなったものである。

#### 問題例 1：音声提示による文法問題

音声 A：この本、読みましたか。

音声 B：いいえ、まだ            a 読んでいません  
                                                 b 読みませんでした  
                                                 c 読みました

音声による語彙問題は、説明を聞いてそれが表している言葉を選ぶ問題、3つの語彙を聞いて共通に含まれている漢字を選ぶ問題である (酒井 2005)。

#### 問題例 2：音声提示による語彙問題の例

問題文 音声 今日 3 日です。昨日は何日でしたか。

選択肢 音声 a ふつか    b みっか    c よっか

これらの下位テストを、技能別で求める日本語力に合わせて重みづけを行い、各技能別のクラス分けに利用した。

### 3.3 第3期：コンピュータテスト・オンラインテストの開発

#### 3.3.1 TTBJ プレースメントテスト (団体受験)

マークシートの利用により、選択問題の採点時間は大きく軽減されたが、記入式の SPOT の採点やテスト結果の処理の軽減化を図るため、また文法以外でも複線型のテストをさらに効率良く行うために、コンピュータを使ったテスト (CBT) の開発を始めた。正答率によって次の段階のテスト問題セットを決める分岐型である<sup>4</sup>。表4に2011年のプレースメントテスト内容を示す。図1は分岐について図示したものである。



表 4 2011年 TTBJプレースメントテスト（団体受験）の内容

A 初級・中上級判定問題			
CBT	文法	10問	
B 初級用問題			
CBT	SPOT	120問	初級・中上級共通
	文法	90問	※初級問題
	音声文法	15問	初級・中上級共通
	漢字読み	30問	※初級問題
	漢字書き	30問	※初級問題
	音声語彙	30問	初級・中上級共通
	漢字SPOT	50問	初級・中上級共通
	記述式後続文完成問題	10問	初級・中上級共通
C 中上級用問題			
CBT	SPOT	120問	初級・中上級共通
	文法	90問	※中上級問題
	音声文法	15問	初級・中上級共通
	漢字読み	50問	※中上級問題
	漢字書き	50問	※中上級問題
	音声語彙	30問	初級・中上級共通
	漢字SPOT	50問	初級・中上級共通
	記述式後続文完成問題	10問	初級・中上級共通

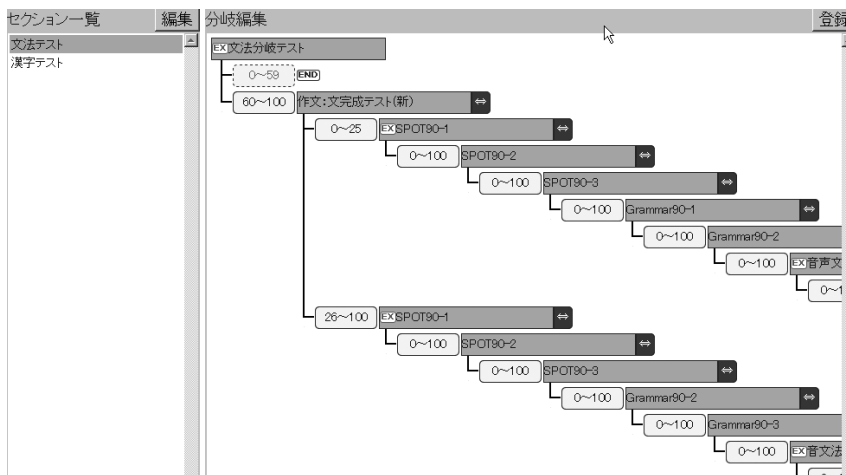


図 1 TTBJプレースメントテスト多層分岐型問題提示システム例

受験にかかる時間は個々の受験者によって異なるが、おおよそ1時間から1時間半程度である。大学の学術情報メディアセンターのコンピュータ室を利用して実施した。各期の受験者数は200名から300名と急増したため受験期間は3日～4日間用意し、1日に2回行うこともあった。これにより、受験者は受験日を自由に選べるようになった。

利用手順は、管理者が人数分のID、パスワードを発行し、学生が受験した後、結果はテスト実施者に一覧になったものが示されるという流れである。コンピュータテストにする際に、問題の解答を記述式から選択式にする必要があった。SPOTは( )に一文字ひらがなを書いていたのを、四肢から選択する方式にするために、記述式テストの誤答の解答を参考に誤答の選択肢を作成した。



図2 漢字 SPOT のテスト画面

新たに追加した問題は、漢字 SPOT (図2) と後続文完成問題である。漢字 SPOT は、SPOT の形式を利用して、漢字語彙の音声処理能力を測るテストである (加納 2009、楊他 2009)。

産出力を測定するために記述式の問題として後続文完成問題を追加した。酒井 (1995) は母語話者と日本語学習者の解答の違いから、誤答と適切性について考察した。

### 問題例 3 : 後続文作成問題

田中さんが来たら \_\_\_\_\_  
 病気がはやくなおるように \_\_\_\_\_  
 大学で勉強するには \_\_\_\_\_

西村 (1999)、長谷川 (2004) は記述式テストを自動評価するための研究について述べているが、現段階ではまだコンピュータで採点する段階には至っていない。

オンラインテストのメリット、デメリットをまとめると以下のようになる。

#### メリット :

- ・ 受験者に合わせてテスト問題を変えることができる
- ・ テスト問題の時間制御が容易にできるため、運用力を測定するテストとしての可能性が生まれる
- ・ テスト用紙印刷、筆記用具の準備などが不要
- ・ テスト問題をランダムに提示できる
- ・ 一人一人ヘッドフォンを使うので、音声が聞きやすい
- ・ データ入力の必要性がなく、すぐ結果が出せる

- ・データの管理が容易で、項目分析などにも利用しやすい
- ・アクセシビリティの面から多様な学生に対する対応がしやすい

#### デメリット：

- ・選択式のテストが中心になる
- ・会話テストのような対面で行うテストができない
- ・作文の採点などはまだ十分ではない
- ・コンピュータ、ヘッドフォンの準備が必要
- ・OS やソフトのバージョンアップやサーバーの更新など、安定して長期に利用するための体制を維持することが難しい

上記のメリットの中で、特に問題提示時間や解答提示時間の制御が容易であること、ランダムにテストが表示できることから、SPOT の研究面でも進展があった（楊 2013、楊他 2013）。SPOT の用紙版と WEB 版との比較に関しては、WEB 版でも従来の用紙版と同じように識別していることが検証されている（小林 2005、2007、小林他 2007、Kobayashi 2016）。

### 3.3.2 「個人受験」へ

ここでは、現在利用しているプレースメントテストを紹介する。留学生数がさらに増加し、来日後、短期間で、受験の受付、会場での受付、一斉テストの指示、実施、およびその後のテスト結果の処理、成績会議の時間、すべてにおいて教員の負担が増してきた。来日が遅れた学生に対応する必要も多くあり、改善策としては、いつでもどこからでもプレースメントテストが受験できるように個人受験の利用をすることにした。

しかし、最も大きなデメリットとしては、受験者が本人かどうかの確認ができないことがあげられる。そこで、筑波大学では、プレースメントテストの結果は最終決定ではなく、とりあえずはじめの授業レベルを決めるためのものであり、その後授業開始時に診断的なレベルチェックを行いそこで合わないとは判断された学生は教員と相談の上レベル変更を行うという流れをとることとした。例えば聴解グループでは5レベルから8レベルまで共通の聴解レベルチェックテストを作成し、クラス判定に利用した（酒井他 2011）。

表5 2018年 TTBJプレースメントテスト（個人受験）の内容

SPOT90	90問	15分程度
Grammar90	90問	30分(最長)
漢字SPOT50	50問	20分程度

表5に現在使われている個人受験のテスト項目を示す。現在筑波大学で使用しているTTBJプレースメントテスト（個人受験）の概要と利用の仕方については次の4章で詳しく述べる<sup>5</sup>。

## 4. TTBJプレースメントテストの概要と利用の仕方

### 4.1.1 TTBJプレースメントテストの概要

この章では、筑波大学で現在利用しているTTBJプレースメントテストについて紹介する。本テストを利用したい教育機関や研究者のガイドとなること願ってこの項目を設けることにした。

TTBJプレースメントテストの特徴としては、以下のことがあげられる。

1) 簡易に利用できる

- ・インターネット環境が整っていれば、どこからでも利用可能である
- ・申し込みを行うと自動的にID、パスワードが発行される
- ・全テスト（3種類）にかかる時間は30分から1時間である

2) テスト終了後に日本語力と漢字力のスコア（100点満点）が示される

3) 日本語力は、運用力と知識の両面から測定している

4) 無料で公開している <http://ttbj-tsukuba.org/>

なお、受験者の本人の認証は行っていないため、これだけでhigh-stakes test（利害関係の高いテスト）としての利用は勧められない。

### 4.1.2 利用条件および利用規約

TTBJプレースメントテストを受験するのに必要なコンピュータ環境等の条件は以下のようになっている。

- ・インターネット接続のスピード（高速回線）があること
- ・OS：Windows 7、8、10、Mac OS X
- ・インターネットブラウザ：FireFox、GoogleChrome等
- ・Adobe Flash Player 10以上
- ・音声を再生できること
- ・JavaScriptを有効にすること

利用するにあたっては、下記の利用規約に同意することが求められている。

＜利用規約＞

- ・本テストは、無償で提供されるものであり、本テストの成績は、あなたの日本語力を公的に証明するものではありません。自己診断目的としてお使いください。
- ・本テストの信頼性を確保するため、試験問題、音声ファイルは、他の人に教えたり、テストの目的以外の使い方はしないでください。
- ・本テストを改善するため、個人のプライバシーを損なわない形で、試験の結果を研究に利用することを了承してください。
- ・本テストを改善するため、個人のプライバシーを損なわない形で、試験の結果を研究に利用することを了承してください。

### 4. 1. 3 テストコンテンツ

筑波大学で利用しているプレースメントテストは、「SPOT90、Grammar90、漢字 SPOT50」のセットである。以下、それぞれのテストについて簡単に紹介する。図3に SPOT90 のテスト画面の例を示す。

＜ SPOT90 ＞

即時的に日本語をどの程度処理できるかを調べることで、運用力を間接的に測っている。自然なスピードで読み上げられる音声情報と、それに対応する同じ文が画面上に同時に提示される。読み上げ終了後、空欄に入るひらがな一文字の解答選択肢が提示され一つ選択する。解答時間は1問につき3秒である。30問を1セットとする3セットから構成されていて、易しいほうから、SPOT90-1、SPOT90-2、SPOT90-3の合計90問である。所要時間は15分程度である。SPOT90-3は音声を聞き取りにくいように加工している。

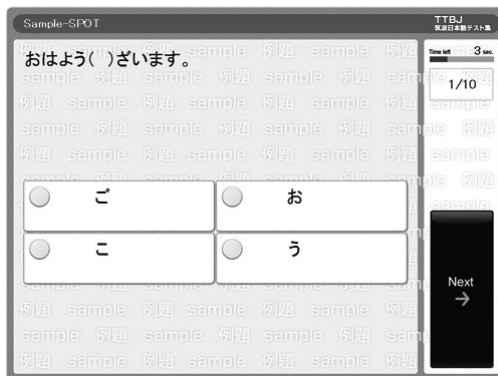


図3 SPOT90のテスト画面

＜ Grammar90 ＞

初級から上級までの形式と意味の結びつきを重視した文法項目の知識を測るテストで文中の空欄に入る適当なことばを選択する。各文は互いに関係なく独立している。30問を1セットとする3セットから構成されていて、全部で90問である。テストの制限時間は1セット10分で、3セット90問にかかる所要時間は30分である。自分のスピードに合わせて答えられるので、早く終わることもできる。

＜漢字 SPOT50＞

漢字語彙の音声処理能力を測るテスト。自然なスピードで読み上げられる音声情報を

聞きながら、文中の空欄に漢字一文字を選択。聞き取り能力の高い学習者には音声情報が正しい漢字を選ぶヒントとなり得るが、聞き取り能力の低い学習者には短時間で音声情報と文字情報の両方を処理することが難しいことから、このテストは実際に使える漢字語彙の運用力を推定する目的で作られている。1セット50問で15分である。

表6に得点の解釈の目安を示す。日本語能力試験との対応はテストの作成方針も異なるためあくまで参考程度として扱ってほしい (TTBJのHPより)。

表6 得点の解釈の目安

< SPOT90 >

合計点	能力判定	説明	日本語能力試験との対応
0～30	入門	日本語を学習したことがほとんどない。	なし,あるいはN5
31～55	初級	ゆっくりであれば日常生活の基本的な日本語を理解できる。	N4, N5
56～80	中級	自然な話速度で日常的な場面の日本語がある程度理解できる。	N3, N2
81～90	上級	自然な話速度で幅広い場面の日本語が理解できる。	N1

< Grammar90 >

合計点	能力判定	説明	日本語能力試験との対応
0～20	入門	日本語を学習したことがほとんどない。	なし,あるいはN5
21～50	初級	初級の文法知識がある。限られた単語を使ったやさしい日本語であれば理解できる。	N4, N5
51～80	中級	中級の文法知識がある。日常生活で使われる日本語が理解できる。	N3, N2
81～90	上級	上級の文法知識がある。幅広く日本語が理解できる。	N1

## 〈漢字 SPOT50〉

合計点	能力判定	説明	日本語能力試験との対応
0～15	入門	漢字をほとんど学習したことがないか, 学習を始めたばかり(100字程度)のレベル	なし, あるいはN5
16～30	初級	Basic Kanji Book vol.1, vol.2 約300～500字を学習した程度のレベル	N4
31～40	中級	Intermediate Kanji Book vol.1までの約740字を学習した程度のレベル	N2, N3
41～50	上級	Intermediate Kanji Book vol.2までの約1200字を学習した程度のレベル	N1

## 4.2 TTBJプレースメントテストの利用の仕方

## 4.2.1 筑波大学における利用

筑波大学では、受講希望者への TTBJ 受験の連絡から授業登録まで、以下のような流れで行っている。

1. 渡日前に、事務の方から各種書類と一緒に郵便で TTBJ プレースメントテスト受験の指示を送る
2. 各国の端末で受験する
3. 結果の PDF をダウンロードするか印刷する
4. WEB 上で、自分のテスト結果をレベル判定表と照らし合わせる
5. 初日の授業に結果の PDF を持参する
6. 各授業で、教員がテスト結果をチェックする
7. 受講登録を行う

インターネット環境が整っている国からの学生は、渡日前にほとんど受験してくるため、授業開始前に学生の日本語力別の人数が把握でき、受け入れ準備の面では大きな利点となっている。受験できなかった場合は来日後にコンピュータ室などから受験するが、補助が必要な学生のためには、CEGLOC のコンピュータ室で受験日を設けている。以下、具体的な受験の手順について紹介する。

#### 4.2.2 受験方法1：申し込みから受験まで

1. TTBJ 利用規約に同意する。
2. 受けるテストを選択する。  
筑波大学の場合は「SPOT90、Grammar90、漢字 SPOT50」
3. コンピュータ端末が受験可能なスペックを満たしているか確認を行う。
4. 音声聞こえるかをチェックする。
5. 問題がなければ「受験申込」の画面が表示されるのでクリックする。
6. E メールアドレスを入力する。
7. 入力したメールアドレスに、受験用の ID とパスワードが送信される。
8. TTBJ のテストシステムにインターネットを使ってログインする。
9. 受験

テストが終了すると、結果が表示される。

10. 3種類の問題がすべて終了した後、図4の成績表が表示される。各問題の得点と、日本語と漢字のスコアが表示されている。PDF ファイルとして、ダウンロードすることもできる。

成績表  
Score report

あなたの TTBJ スコアは以下の通りです  
Your TTBJ scores are as follows.

TTBJで受けたテスト: SPOT90-1, SPOT90-2, SPOT90-3, Grammar90-1, Grammar90-2, Grammar90-3, 漢字SPOT50

ID	氏名 / Name	メールアドレス / Mail	受験日 / Exam date
			2018/12/5
SPOT90-1	27 / 30		
SPOT90-2	18 / 30		
SPOT90-3	16 / 30		
Grammar90-1	28 / 30		
Grammar90-2	18 / 30		
Grammar90-3	10 / 30		
漢字SPOT50	39 / 50		

日本語力の総合スコア: 65

漢字力の総合スコア: 68

図4 レベル成績表

PT score/Level determination [2017]

日本語力総合スコア Score on Japanese ability	日本語レベル Japanese Level	漢字力総合スコア Score on Kanji ability	漢字レベル Kanji Level
0-30	J1	0-30	K1
31-47	J2	31-40	K2
48-58	J3	41-52	K3
59-68	J4	53-66	K4
69-74	J5	67-74	K5
75-82	J6	75-80	K6
83-89	J7	81-89	K7
90-100	J8	90-100	K8

図5 レベル判定表

#### 4.2.3 受験方法2：レベル判定

テスト結果を判定表(図5)に照らし合わせて、日本語レベルを確認する。筑波大学ではクラスのレベルに合わせて、日本語レベル、漢字レベルとも8レベルに分けているが、これは利用する機関や目的に合わせてレベル分けの段階や基準を変更するとよい。

### 5. おわりに

プレースメントテストに関わってきた30年を振り返り、変化したこと、変化しなかったことを改めて概観してきた。留学生の急増に対処するために、変わらざるを得なかった部分も大きい。最も大きな変化は、コンピュータを使ったオンラインテストになったことである。SPOTなど時間制御や問題のランダム表示などコンピュータテストだからこそできる利点がある。またアクセシビリティの面に配慮することは近年とくに強く求められるようになってきている。グローバル化が進み、プレースメントテストにおいても、様々な出身国の学生が自国での対応と同様の対応を求めるケースも増えてきている。



が、コンピュータでは比較的容易に個別の対応が可能である。

オンラインテストは、いつでもどこからでも受験可能であることの利便性は計り知れない。しかし、この技術革新が逆に使用を制限することにもなる。直面しているのが2020年にFLASHが停止されるため、脱FLASH対策が必要となることである。改変のための資金がなければ、せっかく作ったものが使えなくなるのである。ソフトのバージョンアップやサーバーの更新等、今後もテストシステムを安定して使用するための保守管理の体制は常に考えておく必要がある。大きなメリットがある一方で、失ったものにも目を向ける必要があろう。

評価のあり方として教師がレベルを決めるのか、学習者が判断材料を得てレベルを決めるのかという考え方にも変化がみられた。学生がレベル変更を希望した場合、初期のころは、受講クラスは教師が決めるものであり、クラス移動はテスト結果に基づいて教師の許可のもとに行っていた。近年は、教員はテスト結果に基づく情報を学生に提供した上で、学生本人の責任の下でクラス移動を行うように変わってきた。

TTBJ プレースメントテストは、多くの方のおかげでここまで作り上げることができた。今回、プレースメントテストの開発、研究について30年間を振り返る機会をえられたことに感謝したい。

## 注

(1) TTBJは3名の科学研究費補助金の研究助成を受けて作成した。加納は漢字力診断テストの研究、小林はSPOTの妥当性の検証、酒井はオンラインテスト開発をそれぞれ研究代表者として行い、それらの研究を合わせてテスト集を完成させた。

(2) TTBJ プレースメントテスト作成関係者

TTBJの開発：

小林典子（元筑波大学、SPOTの全体設計、SPOTのコンテンツ開発）

加納千恵子（元筑波大学、漢字SPOTのコンテンツ開発）

酒井たか子（筑波大学、プレースメントテスト総括、文法他のコンテンツ開発）

運用担当：

李在鎬（早稲田大学、ウェブサイト構築、SPOTの公開システム開発補助）

協力者：

當作靖彦（カリフォルニア大学サンディエゴ校）

フォード丹羽順子（佐賀大学、SPOTコンテンツ作成）

山元啓史（東京工業大学、SPOTコンテンツ作成）

魏 娜（国際交流基金関西センター、コンテンツ登録、システム運用補助）

楊 元（元筑波大学大学院生、コンテンツ登録、システム運用補助）

運営協力：

筑波大学 グローバルコミュニケーション教育センター 日本語教育部門

日本語・日本事情遠隔教育拠点

- (3) 開発したシステムは大きく二つに分けられる。受験者の登録と結果の表示、記録の機能は TTBJ 独自の機能として発注したものであり、テストの本体部分はロゴスウェア株式会社開発のソフトウェア THiNQ Maker を筑波大学仕様にカスタマイズしたものである。
- (4) IRT を使った適応型テストは得点の推定を行う場合には適しているが、受験者によりテスト項目が異なるため、学習者の既習項目・未習項目の習得情報は得られないので、本テストでは採用はしないことにした。
- (5) TTBJ の受験者数の団体受験としての受験期間および受験者数は 2016 年 3 月～2017 年 3 月 25 日の期間に 2297 名、2017 年 4 月～2018 年 3 月 29 日の期間に 1160 名であった。2018 年 8 月で管理上の負担により団体受験の受付を中止し、個人受験の利用を推奨している。

## 参考文献

- 加納千恵子 (2005) 「日本語教育の多目的化およびモジュール化—2004 年度留学生センター日本語プログラムの再編報告—」『筑波大学留学センター日本語教育論集』第 20 号、93-108
- 加納千恵子 (2009) 「漢字語彙の音声処理能力を探る—漢字 SPOT の開発と課題—」『筑波大学留学センター日本語教育論集』第 24 号、1-17
- 小林典子・フォード順子 (1992) 「音声聴取に関する実証的研究」『日本語教育』78 号、167-177
- 小林典子・フォード丹羽順子・山元啓史 (1996) 「日本語能力の新しい測定法〈SPOT〉」『世界の日本語教育』6 号、201-218
- 小林典子 (2005) 「言語テスト SPOT について - 用紙形式から WEB 形式へ -」『筑波大学留学センター日本語教育論集』第 20 号、67-82
- 小林典子・酒井たか子・フォード丹羽順子 (2007) 「即時要求型言語テストの WEB 化 - SPOTWEB の場合 -」CASTEL-J in Hawaii
- 小林典子 (2007) 「Web-Based SPOT のプログラム開発：プログラミング上で発生した問題点」『筑波大学留学センター日本語教育論集』第 22 号、11-18
- 小林典子 (2014) 「SPOT について」『日本語学』明治書院、2014 年 10 月号、42-51.
- Kobayashi, Noriko (2016) Japanese language proficiency assessment with the Simple Performance-Oriented Test (SPOT) as a primary focus. In Masahiko Minami (ed.),

- Handbook of Japanese Applied Linguistics. (Handbooks of Japanese Language and Linguistics 10 NINJAL) 175-198. Berlin/Boston. De Gruyter Mouton.
- 三枝令子 (1987) 「プレースメント・テストの統計的処理の試み」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第2号、171-192
- 三枝令子 (1989) 「プレースメント・テストの妥当性と今後の展望」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第4号、161-199
- Saegusa, Norio (1987) Development of Item Analysis and Related Programs for Personal Computer 『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第2号、193-200
- 酒井たか子 (1987) 「プレースメント・テスト複数回受験者の得点推移と習得タイプ」『筑波大学留学センター日本語教育論集』第2号、201-222
- 酒井たか子 (1989) 「プレースメント・テキストの母語群別分析」『筑波大学留学生教育センター日本語教育論集』第4号、139-160
- 酒井たか子 (1995) 「文の適切性判断のための一試案－後続文完成問題における日本人との比較－」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第10号、19-28
- 酒井たか子 (1997) 「日本語習得適性テストの再検討 (1): 聴覚情報処理問題を中心に」『文藝言語研究. 言語篇』第32号、17-30
- 酒井たか子 (2005) 「音声情報の関わる漢字能力とその測定の試み」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第20号、45-56
- 酒井たか子 (2007) 「中規模テストとしてのプレースメントテスト再考」(藤原雅憲ほか編) 『大学における日本語教育の構築と展開』ひつじ書房、263-276
- 酒井たか子・関裕子・二瓶知子 (2011) 「中上級聴解レベル分けのためのテストの試作と実施報告」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第26号、59-76
- 西村よしみ (1999) 「記述式と選択式テストにおける言語知識と運用能力の測定に関する考察 - 記述式テストを記述する試み -」『文藝言語研究. 言語篇』35、103-118 筑波大学
- 長谷川守寿 (2004) 「プレースメントテストにおける作文の評価と形態的特徴の関係について」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第19号、1-20
- フォード順子・小林典子・山元啓史 (1995) 「日本語能力簡易試験 SPOTは何を測定しているか - 音声テープ要因の分析 -」『日本語教育』86号、93-102
- Ford-Niwa, Junko and Noriko Kobayashi (1999) SPOT: A Test Measuring “Control” Exercised by Learners of Japanese”, The Acquisition of Japanese as a Second Language, Kanno, K. ed., John Benjamins Publishing Co., (Amsterdam & Philadelphia). 53-69

- 堀口純子 (1986) 「筑波大学における日本語教育その十年」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第1号、89-110
- 村上京子 鹿原雅意 酒井たか子 (1991) 「事前の評価－日本語習得適性テストの実践－」『テストハンドブック』大修館書店、241-294
- 楊元・加納千恵子・酒井たか子 (2009) 「プレースメントテストにおける中上級「漢字 SPOT」の項目分析－漢字圏・韓国・非漢字圏学習者の比較を通して－」『日本語教育方法研究会』No.16-2、10-11
- 楊元・酒井たか子・小林典子 (2013) 「言語テスト「SPOT」の難易度に影響を与える要因：選択肢の効果について」『国際日本研究』No.4、1-16
- 楊元 (2013) 「言語テスト「SPOT」と暗示的知識の測定：音声の有無と解答時間による分析」『言語教育評価研究』第3号、12-24
- 吉田 睦・酒井 たか子・小林 典子 (2008) 「留学生センターにおける日本語補講授業とプレースメントテスト運営の現状と改善」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第23号、123-134